

Mplus 1 Regular

Size: 10pt

Leading: 24pt

Kerning: Optical

アリスはあっきあきしてきた、木かげで、お姉さまのそばですわってるのも、何もしないでいるのも——ちらちらお姉さまの読んでる本をのぞいてみても、さし絵もかけ合いもない、「なら本のねうちって何、」とアリスは思う、「さし絵もかけ合いもないなんて。」

だから物思いにふけるばかり（といってもそれなり、だって日ざしぼかぼかだとぼんやりねむくなってくるし）、デイジーの花輪作りはわざわざ立ち上がって花をつむほど楽しいものなのかしら——そこへふといきなり赤い目の白ウサギが1羽そばをかけぬける。

たいして目を引くようなところもないから、アリスにしてもさほどとんでもないとも感じないまま、聞こえてくるウサギのひとりごと。「およよ！ およよ！ ちこくでおじゃる！」（あとになって思い返すと、ここでふしぎがってしかるべきという気もするけど、そのときはみんな自然きわまると思えてね）その次にウサギがチョッキのぼっけから時計を取り出し、まじまじしてからかけ出したから、アリスもとびあがる、だつてむねがはつとした、これまでそんなウサギ見たことない、チョッキにぼっけがあったり、時計を取り出したり、そこでわくわく気になる、野原を走って追っていくと、さいわいちょうど目の前でそいつはかき根の下、大きなウサギ穴にぴよんと入って。

たちまち飛びこみアリスは後を追う、またもどつてこられるかなんて、ちっとも考えもせずに。

そのウサギ穴はまっすぐ続いて、まるでどこかトンネルみたい、そのあといきなり下り坂、いきなりすぎてふみとどまろうと思うまもなく気づいたらかなり深いふきぬけみたいなところに落っこちていて。

穴がすごく深いのか、落ちるのがすごくゆるやかなのか、どうにもひまがありすぎて、落ちるあいだにあたりは見られる、次にはどうなるのって思いもできる。まず下を見てみると、ゆく先はわかるけれども、暗すぎて何がなんだか。そのあと穴のぐるりを見ると、目にとまるのはぎっしりならんだ戸だなに本だな。あちらこちらに見える画びょうでとまった地図に絵。通りがかりにたなのひとつからびんを取り下ろすと、〈オレンジ・マーメイド〉とはられてあるのに、とてもがっかり、中身はから。とはいえ、びんを放るのはしのびない、だつて下のだれかが死ぬといけないから、うまく戸だなのひとつへ通りすがりに